

女性市長大いに語る ～暮らしの満足度を高めるために～



やまだかなこ
北区長(東京都)



ふじたあけみ
加茂市長(新潟県)



司会・コーディネーター
そめやきぬよ
染谷絹代
しまだ市長(静岡県)



まつかわのぶこ
大東市長(大阪府)



さとうみと
座間市長(神奈川県)



女性活躍をけん引する都市のリーダーとして、どのようなビジョンを描き、まちづくりを進めしていくのか、また、行政の長として、地域課題の解決を図っていくのか注目が集まっています。

座談会では、藤田・加茂市長、やまだ・北区長、佐藤・座間市長、逢坂・大東市長にお集まりいただき、市長としてのやりがい、中長期を見据えた持続可能な行財政運営の在り方、子育て支援施策、今後の展望などについて、幅広く語っていただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

人口減少や少子高齢化が進展し、地域課題が多様化・複雑化する中、市長の役割はより重要性を増しています。中でも、女性ながらの発想力や行動力を生かし、市民が暮らしやすいまちづくりを推進する女性市長への期待が高まっています。

市長としてやりがいを感じた出来事

染谷 本日は女性市長の皆さんにお集まりいた

だきました。初めに自己紹介を兼ねて、市長としてやりがいを感じたことなどについて、お聞きしたいと思います。まず私が口火を切りたいと思います。

私は市長になって4期目、13年目に入ったところです。子育て支援はもちろんですが、妊娠期から子育て期にかけて担当保健師が切れ目なくお母さんに寄り添う「島田市版ネウボラ」、赤

ちゃんが生まれたお母さんのための講座の開設など、「親育て」に向けた施策も積極的に進めてきました。

また、現在は社会構造が大きく変わる転換期です。その観点から、島田市を未来につなぐ3大戦略として、「循環型社会」「縮充」「DX」を柱に、持続可能なまちづくりも進めてきました。

中でも、縮みながら充実していく「縮充」を戦略の一つに掲げた際には、「後ろ向きなことを言うな」との批判の声も聞かれましたが、進展する人口減少に即して、本当に必要な施設・事業に資源を集中させるなど、量から質へと、まちづくりの転換を進めてきました。

先日、市役所近くの横断歩道で、小学生の男の子に「市長、尊敬しています。がんばってください」と声を掛けられました。イベントに出席したときなどにも、市民の皆さんから声を掛けいただいています。本当にありがたいことです。市長という職務は、24時間365日、気を張り詰めっぱなしですが、こうした市民の皆さんからの励ましが、私の一番のやりがいになっています。

藤田 私は障がいがある方々を取り巻く環境や

子どもたちの教育環境を改善したい、住みよいまちにしていきたいとの思いで、市議会議員になりました。しかし、なかなか関連の予算がつかず、市議を1期で辞め、意を決して市長選に出馬しました。今は市長就任から約6年半がたち、2期目の折り返しを過ぎたところです。

思い返すと、市長選出馬を決めた当時の財政



施設の再編はやむを得ないとしても、必要な施設

気を張り詰める日々の中で 市民の皆さんからの励ましが 私の一番のやりがいに なっています。



染谷 紗代
島田市長(静岡県)

やまだ 私は区議会議員を4期、都議会議員を2期務めた後に、「みんなで創る。新時代!」を掲げ区長に就任しました。七つの主要政策を示し、各事業をスピード感をもつて推進していま
すが、その進めていく基盤として、区民に寄り添った区役所となるために大切な業務改善や職員の意識改革に着手しました。

区民からご指摘をいただく「縦割り」をなくすため、「しごと連携担当室」を新設し、府内連携減と区民サービスに直結するDX化に向け「北区デジタル推進条例」制定を柱に実効性のある取り組み、また各分野での外部人材の活用を推進し、職員のスキルアップと区民サービス向上につなげています。職員の意識改革では健康経営を打ち出し、職員自らの意欲と活力を最大化するために、「区長へのはがき職員版」で直接意見が言える機会、また職員自らの意見や取り組みで環境をつくる活動のプロジェクトチームを立ち上げています。その中で、職員から「こうした制度を設けてくれてうれしいです」「新区長の下で、区役所が動き出したのを感じます」といった言葉をもらつたときには、私自身もやる気が湧いてきましたし、うれしさを感じました。そして現場主義の区長として地域を細かく歩く中で区民の皆さんからも区役所が変わつてきました、区が明るくなつた、毎月の区長記者会見を見て、区の行つてることを知る機会が増えたなどお言葉をもらつた時は区の思いが伝わつていることに喜びを感じています。

ところで本日は、北区のブランディングロゴが入つたTシャツを着てきました。区民や事業者など、関係者みんなで力を合わせ、ブランディングメッセージの「きたいを超える 東京北

区」を実現していくために取り組んでいます。どんどん区長が先頭に立つて発信していきたいと思います。

逢坂 大東市は大都市・大阪市に隣接しながら、いい意味でのおせっかい焼きが多く、人のつながりが濃密に残つてゐる地域です。歴史ある「だんじりまつり」の保存会も地区別に残つていて、消防団も活発に活動しています。私は大東市出身ではあります。私は大東市出身ではありませんが、外から来た人間だからこそ、こうした地域の魅力がよく見えます。

私は大東市の職員として34年間勤めてきました。福祉や健康分野の勤務が長く、市民の皆さ



「親育て」の観点から、母親を対象にした講座を開設。赤ちゃんも一緒に参加できる(島田市)

んと協力しながら、いろいろな事業を進めてきました。職員時代に市民の皆さんに育てていた大きさのもので、そのお返しをしたいと、市長選に立候補させていただきました。

私のように、長年、市民の皆さんと共に仕事をしてきた一市役所の職員が市長に就いた例は、大東市では過去にありません。職員時代と

子どもも大人も
誰もがその人らしさを生かして
暮らしていけるまちを
つくっていきたいです。

藤田 明美
加茂市長(新潟県)



老朽化した公共施設、とりわけ学校施設の適正配置も重要な課題です。児童・生徒数については、昭和58年のピーク時に比べて、現在は半程度に減少する中、教育委員会において、将来を見据えた学校の適正規模・適正配置の検討を続け、令和7年10月に、「座間市学校再編計画(骨子案)」を作成しました。

市議会議員時代は、市役所に赴くときも、買

市長に就任後、待機児童の解消、中学校給食の全員喫食に向けて、今後の方向性を検討するとともに、市民とのコミュニケーション強化に向けて、市LINE公式アカウントも立ち上げました。人口は約13万人のまちですが、登録者は10万人以上。情報発信はもとより、これまで課題だった市民アンケートも容易に行えるようになり、市民の皆さんのご意見の把握も進みました。

佐藤 私は4期16年、市議会議員として、市民の皆さんと連携してまちづくりを進めてきました。もっと市民の皆さんとまちづくりをていきたい。その思いが高じ、市長選に立候補しました。

変わらず、今でもスーパーのレジに並ぶ私に、市民の皆さんも親近感を抱いてくださっているみたいです。また、これまで市政に参画する機会がなかつたものの、私が市長に就任して以来、まちづくりや地域の出来事を、自分がこととして考えるようになった。そのようにおっしゃる子育て世代の方々、女性の皆さんも増えてきました。そのことを私は一番うれしく感じています。

い物に行くときも、自転車にのぼりを立てて移動していたものです。市長就任後、セキュリティ上の問題から普段は差し控えていますが、そんな私を市民の皆さんも身近に感じてくださっていると聞きます。市民の皆さんから「いつもありがとうございます」と言つていただくことが、何よりうれしいです。

持続可能な行政運営に向けて

染谷 市民の皆さんのが、各市長を感じていらっしゃることがよく分かりました。先ほど申し上げたように、今、社会は大きな



加茂市公共施設再編アクションプラン(案)地区説明会の様子(加茂市)

転換期にあります。かつては、新しい市長が就任するごとに、まちの拡大、発展への期待が、市民の皆さんからも向けられていたと思います。しかし、いよいよそうはいかなくなりました。老朽化した公共施設への対応が迫っている中で、そこに人口減少の問題も重なってきました。拡大路線が当たり前だった高度経済成長期とは逆の展開になっています。

逢坂 大東市はこれまでの市政運営の結果、相当数の市営住宅を抱えています。人口減少が進む中、これまでと同じように、更新を迎えたびに建て替えを進められる時代ではありません。そこで、大東市では市の出資の下で設立したまちづくり会社などと連携して、市営住宅の跡地に、民間賃貸住宅、商業施設を整備し、それに合わせて都市公園をリニューアルする「北条まちづくりプロジェクト」を推進しました。市はその民間賃貸住宅を市営住宅として20年間、借り上げる方針にしています。建設費に国庫補助金を活用していないこともあります。デザイン性の高い建物建設も可能で、大阪市にあったアパレルメーカーの本社誘致も実現しました。エリアの魅力も高まり、連日、多くの親子連れが集うようになり、路線価も上がりました。さらに、周辺地域に子育て世代も流入し、子どもの数が増えるなど、大きな成果が上がっています。

やまだ 北区でも公共施設などについて、将来的な人口減少や人口構造の変化などによる利用・需要の変化を予測し、長期的な視点で総合的な方針「公共施設等総合管理計画」を策定し、

「区民のための行政」を徹底していくためにも職員の意識改革に取り組みました。

やまだ 加奈子
北区長(東京都)



では、各市長はこうした状況にどう立ち向かって、市民の暮らしの満足度を高めようとしているのか、お聞きしたいと思います。

藤田 加茂市では1970年代から1980年代にかけて、多くの公共施設が整備されました。これまで適切なメンテナンスがされてこなかったこともあり、一層、老朽化が進んでいます。加えて、人口減少も進行しています。この傾向は、今後も変えられないでしょう。

こうした状況の中で、何が問題となっているかといえば、高度経済成長期の基準に合わせたインフラの整備や建て替えを今後も続けてしまうことではないでしょうか。そうすれば、無理が生じてしまうのは明らかです。むしろ、人口減少に合わせた持続可能なシステムに変えて、それまで公共施設を要していた経費を別の市民サービスに振り向けていくことがでければ、市民の暮らしの満足度は向上するのではないかと 思います。



ファンと共に「きたいを超える」北区シティブランディング戦略発表会(北区)



「地域とともにある学校」を中心として、まちづくりを展開していきたいと考えています。

佐藤 弥斗
座間市長(神奈川県)

改修・改築などを進めています。既に、施設全体の4割を超える学校施設の統廃合が終了し、中学校については全て改修・改築が終わり、小学校は2年に1校ペースでリノベーションや改築などを実施しています。また、北区は東京都内で3番目に都営住宅が多い自治体ですが、この都営住宅の建て替え時や、まちづくりの際に国有地や都有地をうまく生かして、区有施設

在、区内の四つの主要駅周辺で再開発が行われていて、このタイミングをとらえて施設リニューアルを行い、区民の利便性向上とエリアの魅力を高めていきたいと考えています。

佐藤 座間市では、学校再編に伴い、学校を中心とした地域コミュニティの再構築も図っています。その背景にあるのが、

自治会の加入率の低下です。年々、加入率は低下傾向にありましたが、今や30%台にまで落ち込みました。年齢層の若い市民の皆さんの中には、そもそも自治会の存在を知らない、入会の仕方が分からぬ、という方も少なくあります。そうした中でも、市民と地域の接点の一つとして、学校がその役割を担っているものと考えています。子育て世代であれば、お子さんは学校に通いますし、コミュニティスクールや放課後子ども教室も展開しています。

座間市の自治会は、規模が小さく、数が多いという特徴があります。学校再編と合わせて自治会の集約を進め、ゆくゆくは「地域とともにある学校」を中心として、まちづくりを展開していく予定です。地域に学校がなくなる中で、どのようにコミュニティの強化を図っていくか、新たな課題も生まれています。地域コミュニ

ティを強化する担当を置くなど、対策を考えています。

社会全体で進める子育て支援

染谷 お話を聞きして、皆さんには共通の視点があると感じました。それは、10年先、20年先のまちの未来をしっかりと見据え、そのため今、何を選択すべきなのかを考え、市政運営を進めていらっしゃるということです。財政問題や職員育成、市民サービスの在り方など、さまざまな課題がありますが、中長期的な視点を持ちながら、トータルで判断して、バランス



「座間市学校再編計画(骨子案)」の作成に伴う地域の皆さんへ向けた説明会の様子(座間市)

職員時代に市民の皆さんに育てていただいたお返しをしたいと市長選に立候補させていただきました。

逢坂 伸子
大東市長(大阪府)



現年、子どもの数が激減しています。各市ではどのような手立てを講じて、子育て支援などの施策を進めていらっしゃるのか、この点についてお聞きしたいと思います。

逢坂 市長就任後、すぐに市立小中学校の給食費完全無償化を実現しました。物価高騰が進む

中、特に子育て世代にそのしわ寄せがいついていると感じていたからです。市長選の選挙公約にも掲げていたものでしたが、実現したことでも多くの保護者に喜んでいただけました。
佐藤 今の若いお母さん方を見ていると、産後ケアの重要性が高まっていると感じます。私の場合は、義理の母親がとても面倒見が良く、手厚くサポートしてもらいましたが、今、私が娘の面倒を見られるかといえば、それはかないません。高齢になつても、長時間働いている人は多くいらっしゃいますから、同様のご家庭はたくさんあると思います。そう考えると、公共交通サービスとして、産後ケア事業を進めることができます。

ただ、座間市内に産院は1院しかありません。

当然、市内のお母さん方は、近隣市の産院も利用されます。事業の実施にあたっては、近隣市の産院等にもご協力いただくことで産後ケアの拡充を実現することができました。

やまだ 核家族化が進展している中、北区では

地域社会全体で子どもを見守る仕組みづくりに注力してきました。まず「北区子どもの権利と幸せに関する条例」施行し、事業を推進してきました。例えば産後ケア事業は、「アウトリー

チ型」開始などの充実や、乳幼児期の親子の居場所づくりとして児童館に、小学生が利用しない時間帯には、開放する取り組み、駅の近くに民設子育て広場を開設してきました。また、充実した相談体制の構築に向けて、全ての児童館に「子どもなんでも窓口」を設けました。子ども

はもちろん、大人でも高齢者でも、子どもに関する相談であれば、何でも応じる身近な相談窓口です。小中学生へは1人1台端末トップ画面に相談につながるアプリを配置、また不登校対策にも注力し、校内別室教室や校外別室として児童館と地域の大学に設置、また外に出ることが難しい子ども向けにバーチャル空間に学びの場「バーチャル・ルーム『ステラ』」を設置し、アバターを介して他者とつながる取り組みも始め、学校の内外に不登校の子どもたちの居場所を確保しています。

藤田 相談体制は非常に重要ですね。加茂市に



エリアの魅力向上、にぎわいの創出につながった「北条まちづくりプロジェクト」(大東市)

は、これまで子育てに関する相談場所の周知が徹底できておらず、どこに相談していいのか分からぬという声も聞かれていましたので、相談先を分かりやすくお示しするようにしました。また、民間会社と連携して、スマートフォンから産婦人科医・助産師・小児科医に相談できる「産婦人科・小児科オンライン相談」も始めました。さらに、教育支援センターに臨床心理士・社会福祉士などの資格を持つ職員を常駐させることで、不登校対策も強化しています。

わがまちの未来ビジョン

おり、例えば、中学校でも仲間と一緒に温かい給食を楽しめるような取り組みも検討していきたいと考えています。

藤田 次の市長がどのような立場の人であつて

も、良い状態で加茂市を渡していきたいと考えています。そのため、今起こっている課題はもちろんですが、まだ起こっていない潜在的な課題に関しても、将来を予測してなるべく私の代で解決できる、またはその種まきをしていきた

いです。

また、私が政治の世界に入るきっかけの一つとなつた分野に障がいや不登校など困難さを抱えている方々の支援があります。誰もがいいところ、才能を持つています。それを生かせるような仕組みづくりも大切です。子どもも大人も含めて、誰もがその人らしさを生かして暮らしていけるまちをつくっていきたいです。

やまだ 私は「区民のための行政」を徹底したい

です。当たり前のことのように聞こえますが、実際には、行政の視点やルールで物事を判断し、進められることが多いように感じます。区民が何を求めているのか、それをしっかりと把握し、その求めに応じた行政運営を進める。さらに、今後、社会環境の変更に迅速に対応した政策を立案・提案し、区民の賛同を得ながら、区民視点の未来を一緒に切り開いていく。職員一人一人がそうした姿勢を持って、政策づくりに取り組む区役所組織ができれば、より豊かさを感じられる北区になると思います。「きたいを超える東京北区」を区民・職員一丸となつて創つてまいります。

佐藤 子どもたちが誇れるまちにしていきたい。これは私がずっと持ち続けている思いです。これまで進めてきた施策の推進はもちろんのこと、子どもたちが座間市に生まれて良かった、住んでよかったですと思つてもらえるようなまちづくりにも、一層力を尽くしていきたいと考えています。

染谷 最後に、未来へ向けてのビジョンとして、わがまちをこんなふうにしていきたいという市长の思いをお聞かせいただきたいと思います。

逢坂 次の世代に、負のレガシーを残さない。これは、ぶれずにやつていきたいですね。また、今、大東市で生まれたお子さんが、成人になり、高齢になるまで、「このまちがいいな」と思つて住み続けられる、そんなまちを市民の皆さんと共につくつていきたいと考えています。そのためにも、目の前にある課題だけでなく、未来を見据えた施策にもしっかりと取り組んでいきたいです。



（令和7年11月13日、全国都市会館にて開催）
本コ一ナ一は隔月掲載となります。次回は3月号に掲載予定です。

染谷 お話をお聞きして、各市長は、市長といふ職務に誇りややりがいを感じながら、明確なビジョンを持つて、まちづくりを進めていらっしゃることがよく分かりました。さらに、わがまちをよりよい状態にして、次の時代に渡していきたいとの思いにも共感を覚えました。本日はこうした意見交換の時間を持つことができ、大変うれしく思いました。これからも、それぞれのビジョンの実現に向けて、市政運営に力を尽くしてまいりましょう。本日はありがとうございました。